

A scenic photograph of Mount Fuji at sunrise. The sun is positioned directly behind the peak of the mountain, creating a bright starburst effect. The sky is a clear, deep blue, and the mountain's silhouette is dark against the light. In the foreground, a calm lake reflects the entire scene, including the sun and the mountain. The overall mood is serene and majestic.

# 静岡県次世代エアモビリティ(eVTOL) 導入促進ロードマップ ver. 1

令和6年12月

※本ロードマップは作成時点における最新動向等に基づいて作成したものである。機体開発や制度整備の状況など今後の事情変化に適宜対応する。

写真：静岡県観光協会提供

# 目次

はじめに	取組経緯	p1	
ビジョン	目指す姿	p3	
	導入イメージ	p4	
ロードマップ	ロードマップ	p5	
実施計画書	観光遊覧・2地点間移動（観光）	p6	
	ユースケース別社会実装の促進	生活交通、救急医療・災害救助	p11
		3次元点群データの有効活用	p12
	関連産業の振興	研究開発／製造	p13
		運航拠点 輸出入拠点	p15
	環境整備	認知度向上 ステークホルダー連携	p16

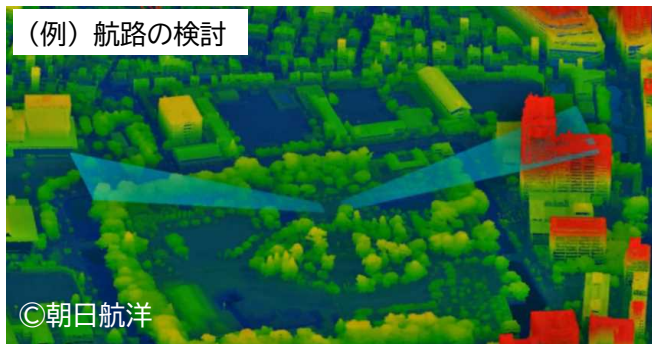
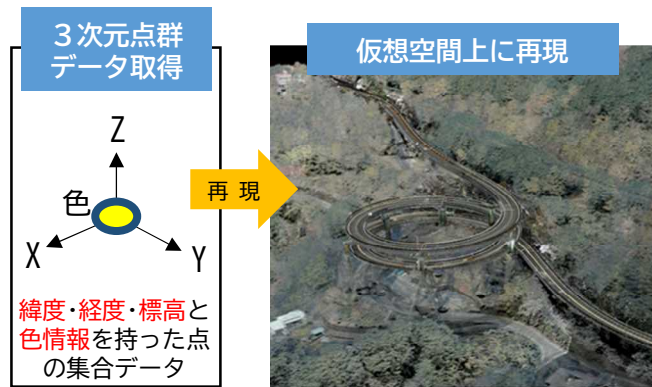
## 航空サービス業界トップクラスの朝日航洋（株）と連携協定を締結 先進導入地域を目指す方針を決定

### <連携協定の締結>

- ・朝日航洋(株)と静岡県は、次世代エアモビリティ分野における3次元点群データの活用に関する連携協定を締結

### <3次元点群データの活用>

- ・静岡県は、全国に先駆け県土の3次元点群データを取得し、オープンデータとして公開
- ・1分の1スケールの点の集まりとして静岡県を仮想空間上に再現が可能
- ・朝日航洋(株)と連携し、離着陸場の適地選定や航路の検討に活用



3次元点群データの活用や航空サービス業界  
トップクラスの朝日航洋（株）と連携し  
全国的な先進導入地域を目指す方針を決定

## 部局横断のプロジェクトチームを設置し、ロードマップを策定

- ・先進導入地域を目指す取組を具体化するため、**部局横断の体制を構築**
- ・2025年度から具体的な取組に着手できるよう、目標や工程を定め、関係者の役割を明確にし、全庁を挙げて推進するための**ロードマップを策定**
- ・策定にあたり、オール静岡体制の構築に向けて、事業者や関係団体等にヒアリングを実施

プロジェクトチーム	関係課	分野
	◎副知事	
○デジタル戦略担当部長	-	-
デジタル戦略局長	デジタル戦略課	全般、環境整備、対外調整
危機管理監代理	危機対策課	コースケース別 災害対応（被災地への飛行） 離島、中山間地等の移動 観光、周遊飛行 救急・災害医療（医師、患者） 広域交通ネットワーク 都市間・都市内交通
経営管理部次長	地域振興課	
スポーツ・文化観光部長代理	企画政策課	
健康福祉部長代理	地域医療課	
交通基盤部長代理	建設政策課 地域交通課	
経済産業部長代理	新産業集積課	機体開発関係、関連産業振興

◎:リーダー、○:サブリーダー

策定スケジュール

区分	2024年7-9月	2024年10-12月
ロードマップ策定作業	← 関係事業者・関係課ヒアリング →	
P T (議題)	●第1回会議 (ロードマップ策定方針)	●第2回会議 (中間まとめ)      ●第3回会議 (ロードマップ案)
		ロードマップ公表(12月) ▲

## 新たな価値の創出と社会課題の解決 ～オール静岡で創る次世代エアモビリティ先進導入地域～

### ユースケース別社会実装の促進

#### 観光での活用



観光客等を対象とした遊覧飛行や  
県内観光地への移動手段としての利活用等

アクセス性、地域の魅力向上

#### 生活交通での活用



条件不利地域等における日々の生活を  
支える交通手段としての利活用等

地域交通の持続可能性、利便性の向上

#### 救急医療・災害救助での活用



救急時や災害時の  
救援・救助用途としての利活用等

救急時・災害時の対応力向上



### 関連産業の振興

#### 製造・量産機能／拠点



機体や部品の  
製造・量産機能等

#### インフラ構築・運営



離発着設備の建設・運営等

#### 輸送サービス



新たなビジネス  
モデルの創出

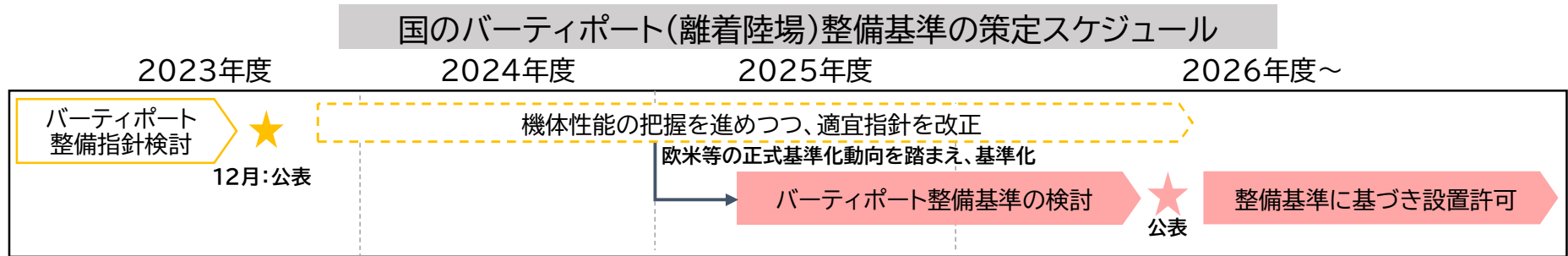
#### MRO 機能／拠点



整備、修理、オーバーホールに  
対応する機能/拠点等

「ユースケース別社会実装の促進」と「関連産業の振興」の両輪で取組を推進

## 最新動向に鑑み、2027年度の商用運航開始を目指す

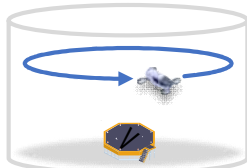


## 社会実装(商用運航)の初期・拡大期・成熟期のイメージ

社会実装  
フェーズ

2027年度～

初期 (商用運航の実現)



限られたエリア・場所での  
商用運航(遊覧飛行)の実現

2030年度～

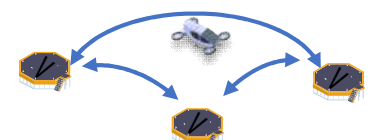
拡大期



2地点間の移動サービスを  
複数のルートで実現

2035年度～

成熟期



2地点間の移動サービスを  
複数のルート・ユースケースで実現

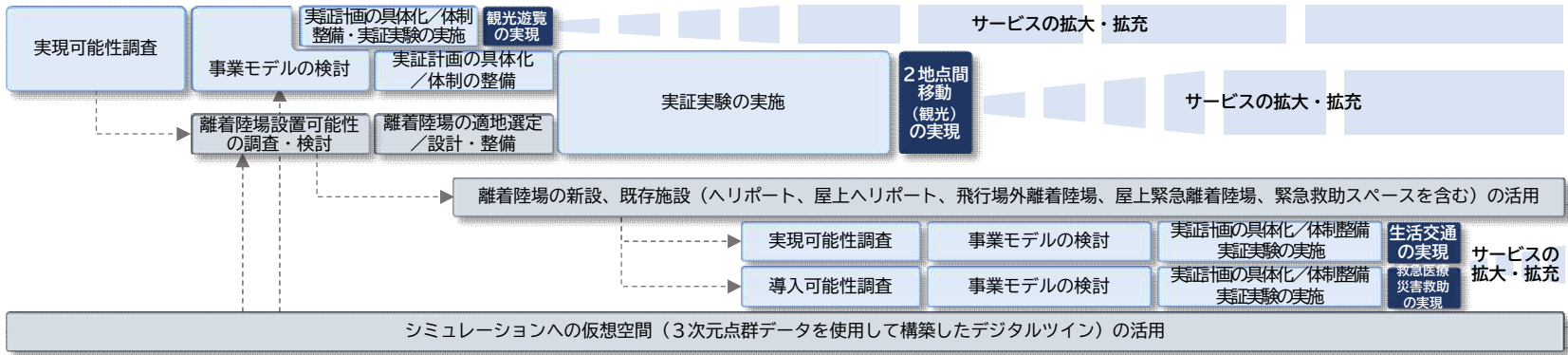
導入  
イメージ

# 静岡県次世代エアモビリティ(eVTOL)導入促進ロードマップ



離着陸場整備基準の公表※ ▼ ▼ 静岡県における次世代エアモビリティの社会実装

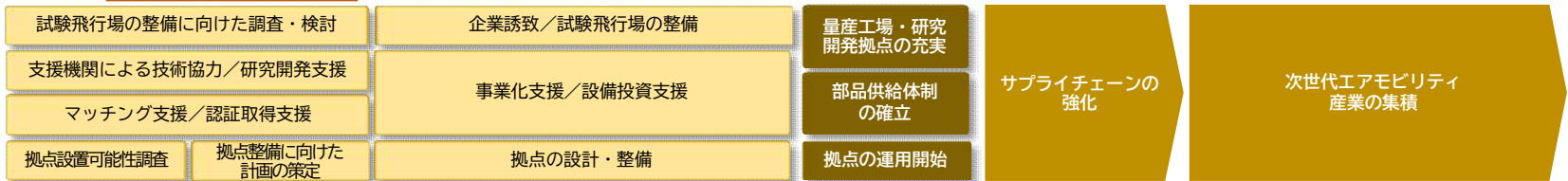
社会実装フェーズ  
 ユーザー別社会実装の促進  
 観光遊覧  
 2地点間移動(観光)  
 生活交通  
 救急医療災害救助  
 3次元点群データの有効活用



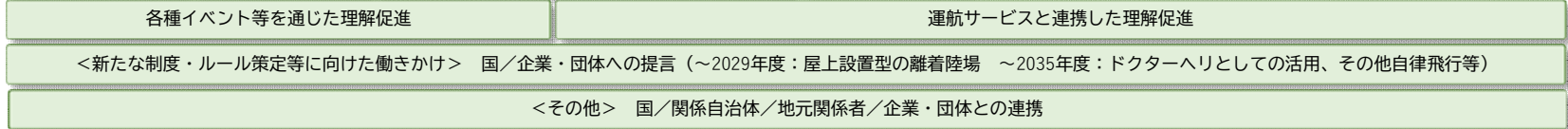
機体開発・製造フェーズ



関連産業の振興  
 研究開発/製造  
 機体メーカー  
 サプライヤー  
 運航拠点  
 輸出入拠点



環境整備  
 認知度向上  
 ステークホルダー連携



※2026年度以降の公表が予定されている

<p>目標・目的</p>	<p>■2027年度の「観光遊覧」の実現（静岡県における次世代エアモビリティの社会実装）                  ■2030年度の「2地点間移動（観光）」の実現</p>
<p>実施項目 (主体※)</p>	<p>①実現可能性調査（県）                  ②事業モデルの検討（事業者）                  ③実証計画の具体化／実証体制の整備（事業者）                  ④離着陸場設置可能性の調査・検討（事業者）                  ⑤離着陸場の適地選定／設計・整備（事業者）                  ⑦実証実験の実施（事業者）</p> <p>⑥離着陸場の新設、既存施設の活用（事業者）</p> <p>※各フェーズ毎に行政・事業者が一体となって取り組むものであり、主体は現時点の想定</p>
<p>取組内容 (取組時期)</p>	<p>①実現可能性調査（2025年度）                  &lt;ヘリコプターを活用した需要調査&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画作成                      調査用航路の選定／実施体制・役割分担／実施スケジュール／当日の工程表                      プロモーション施策内容／検証項目・指標 等</li> <li>・ 事前準備                      機体の選定・取得／許認可手続き／離着陸場所の確保・申請／実施場所周辺関係者への事前説明 等</li> <li>・ 実施・運営</li> <li>・ 結果のとりまとめ</li> </ul>



### ②事業モデルの検討（2026年度）

- ・ 事業モデル・事業環境の整備に向けた調査・検討  
サービスコンセプト／ビジネスモデル／サービス提供に係る必要ステークホルダー  
飛行エリア（仮想空間におけるシミュレーションの活用）等
- ・ 実証実験の実施方針の検討

### ③実証計画の具体化／実証体制の整備（2026年度～2027年度）

- ・ 計画の具体化  
航路（仮想空間におけるシミュレーションの活用）／スケジュール／検証項目・指標等
- ・ 体制の整備  
実施体制・役割分担／関連ステークホルダー等

### ④離着陸場設置可能性の調査・検討（2026年度）

- ・ 設置候補地の調査・検討  
離着陸場設置候補地の選定（仮想空間におけるシミュレーションの活用）  
関連事業者（土地保有者等）の意向／地元市町等の離着陸場誘致の意向確認等
- ・ 離着陸場の要件・機能の調査・検討  
離着陸場に必要施設・設備の要件・機能／必要な離着陸場数等

### ⑤離着陸場の適地選定／設計・整備（2027年度）

- ・ 離着陸場設置地点の選定（仮想空間におけるシミュレーションの活用）
- ・ 離着陸場の設計・整備

⑥離着陸場の新設、既存施設の活用（2027年度～）

- ・ 離着陸場の新設
- ・ 既存施設（屋上ヘリポート、飛行場外離着陸場、屋上緊急離着陸場、緊急救助スペースを含む）の利用

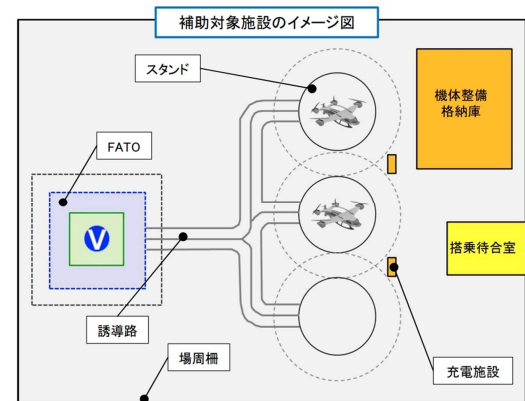
⑦実証実験の実施（観光遊覧：2026年度～2027年度、2地点間移動：2028年度～2029年度）

- ・ 細部計画の策定  
詳細スケジュール／当日の工程表 等
- ・ 実証実験の事前準備  
機体の選定・取得／許認可手続き／離着陸場の確保・申請／実施場所周辺関係者への事前説明 等
- ・ 実証実験の実施
- ・ 結果のとりまとめ

## 三菱地所が御殿場プレミアム・アウトレットに 国土交通省補助金を活用した離着陸場を整備中

### 国土交通省の補助概要

名称	令和6年度パーティポート計画ガイドライン(仮称)の策定に向けた実証事業費補助金
趣旨	空飛ぶクルマの商用運航の実用化を促進するために必要となるパーティポート計画ガイドラインの策定にあたって、パーティポート整備の課題の抽出等のため、パーティポートの整備に要する経費の一部を国が補助するもの
事業概要	①パーティポートの整備 ②令和7年度に垂直離着陸機による実機飛行
補助率	1/2以内 (上限 50,000 千円)

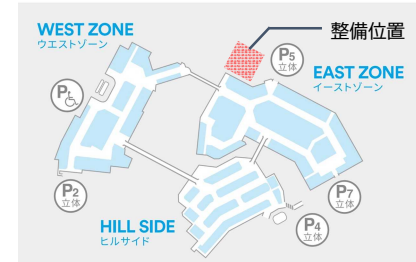


出典:国土交通省 航空局 空港計画課 (令和6年6月12日付け報道発表資料)  
[https://www.mlit.go.jp/report/press/kouku06\\_hh\\_000049.html](https://www.mlit.go.jp/report/press/kouku06_hh_000049.html)

### 三菱地所(株)の実施概要

事業者	三菱地所(株)
期間	2024.8~2025.3(2025.4以降に実機飛行)
運営事業者	三菱地所(株)、三菱地所・サイモン(株)
行政支援	静岡県、御殿場市

### 御殿場プレミアム・アウトレット



出典:御殿場プレミアム・アウトレット HP フロアガイド  
<https://www.premiumoutlets.co.jp/gotemba/brands/pdf/gotemba.pdf>

※申請時点の計画、整備状況に応じて変更の可能性あり

## 朝日航洋がAERO TOYOTAに社名変更（2025年7月）

 朝日航洋株式会社 →  AERO TOYOTA

トヨタが出資する米国のJoby Aviationと共同でeVTOLによる“新たな空の移動”に取り組む



富士山を背景に飛行する初のeVTOL機



Joby機日本初の試験飛行を支援  
画像提供：朝日航洋



Joby機の米国外初飛行(トヨタ自動車 東富士研究所:裾野市)

<p>目標・目的</p>	<p>■拡大期・成熟期（2030年代前半頃）での利活用の実現</p>
<p>実施項目 (主体※)</p>	<p>①実現可能性調査、導入可能性調査（県）                  ②事業モデルの検討（生活交通：事業者、救急医療・災害救助：国・県・事業者）                  ③実証計画の具体化／実証体制の整備、実証実験の実施（同上）</p> <p style="text-align: right;">※各フェーズ毎に行政・事業者が一体となって取り組むものであり、主体は現時点の想定</p>
<p>取組内容 (取組時期)</p>	<p>①実現可能性調査、導入可能性調査（2029年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>〔・市場調査（ニーズ調査・リスク調査等）</li> </ul> <p>②事業モデルの検討（2030年度～）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>〔・事業シミュレーション（収益性、事業継続性）の実施</li> <li>〔・実証実験の実施方針の検討</li> </ul> <p>③実証計画の具体化／実証体制の整備、実証実験の実施（2030年度～）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>〔・計画の具体化、実証体制の整備                     <ul style="list-style-type: none"> <li>飛行ルート（仮想空間におけるシミュレーションの活用）／実施スケジュール／当日の工程表</li> <li>検証項目・指標／実施体制・役割分担／関連ステークホルダー 等</li> </ul> </li> <li>・事前準備                     <ul style="list-style-type: none"> <li>機体の選定・取得／許認可手続き／離着陸場の確保・申請／実施場所周辺関係者への事前説明 等</li> </ul> </li> <li>・実証実験の実施</li> <li>・結果のとりまとめ</li> </ul>

目標・目的

■航路や離着陸場選定への活用促進（効率的かつ迅速な意思決定や合意形成）

実施項目  
(主体※)

シミュレーションへの仮想空間（3次元点群データを使用して構築したデジタルツイン）の活用（事業者）

※各フェーズ毎に行政・事業者が一体となって取り組むものであり、主体は現時点の想定

取組内容  
(取組時期)

シミュレーションへの仮想空間（3次元点群データを使用して構築したデジタルツイン）の活用（2025年度～）

<ユースケース別の社会実装の促進>

- ・事業モデルの検討
- ・実証計画の具体化／実証体制の整備
- ・離着陸場設置可能性の調査・検討
- ・離着陸場の適地選定／設計・整備

航路中の障害物や離着陸場の地形の確認等に活用

<関連産業の振興>

- ・拠点設置可能性調査
- 拠点の適地選定等に活用

<環境整備>

- ・各種イベント等を通じた理解促進、運航サービスと連携した理解促進
- フライトシミュレーターによる運航体験等に活用
- ・国／企業・団体への提言
- 離着陸場（屋上設置型）の適地調査等に活用

<その他の活用分野>

- ・自律飛行の社会実装（例：有人機と無人機が混在する低高度空域における航路の策定）
- ・研究開発／製造分野（例：機体や部品の試作品開発の最小限化、風洞実験等のリードタイムやコストの削減）

## 目標・目的

- 2029年度の「量産工場・研究開発拠点の充実」
  - 2029年度の「部品供給体制の確立」
- 2030年度以降のサプライチェーンの強化や次世代エアモビリティ産業の集積を目指す

## 実施項目 (主体※)

- ①試験飛行場の整備に向けた調査・検討（県・市町）
- ②企業誘致（県・市町）／試験飛行場の整備（事業者等）
- ③支援機関による技術協力／研究開発支援（県）
- ④マッチング支援／認証取得支援（県）
- ⑤事業化支援／設備投資支援（県）

※各フェーズ毎に行政・事業者が一体となって取り組むものであり、主体は現時点の想定

## 取組内容 (取組時期)

### ①試験飛行場の整備に向けた調査・検討（2024年度～2026年度）

〔・市町等と連携した試験飛行場（テストフィールド）の適地・候補地調査 等〕

### ②企業誘致／試験飛行場の整備（2027年度～2028年度）

〔・機体メーカーへの試験飛行場候補地のプロモーション／試験飛行場の整備、利用〕

### ③支援機関による技術協力／研究開発支援（2025年度～2026年度）

〔・次世代自動車センターや静岡県工業技術研究所等による技術支援、研究開発にかかる経費助成 等〕

### ④マッチング支援／認証取得支援（2025年度～2026年度）

〔・県内企業向けビジネスマッチングの開催、コーディネータによるマッチング支援  
 〔・航空・宇宙・防衛関連産業に特化した国際的品質マネジメント規格の取得にかかる経費助成 等〕〕

### ⑤事業化支援／設備投資支援（2027年度～2028年度）

〔・事業化・製品化支援、展示会への出展支援／設備投資にかかる経費助成 等〕

# スタートアップのSkyDriveが静岡県内で次世代エアモビリティの製造を開始

## 会社概要

会社名	株式会社SkyDrive
本社所在地	愛知県豊田市挙母町2-1-1
設立	平成30年(2018年)7月
主な事業	空飛ぶクルマ関連事業(調達・製造・販売)など

## 磐田市の製造工場





## 目標・目的

- 2029年度の「運航拠点」運用開始
  - 2029年度の「輸出入拠点」運用開始
- 2030年度以降のサプライチェーンの強化や次世代エアモビリティ産業の集積を目指す

## 実施項目 (主体※)

- ①拠点設置可能性調査 (県)
- ②拠点整備に向けた計画の策定 (事業者)
- ③拠点の設計・整備 (事業者)

※各フェーズ毎に行政・事業者が一体となって取り組むものであり、主体は現時点の想定

## 取組内容 (取組時期)

### ①拠点設置可能性調査 (2025年度)

- ・ 拠点に必要な機能・条件等の調査・検討
  - 駐機機能、MRO機能、人材育成機能 等
- ・ 候補地の調査・検討
  - 候補地調査 (仮想空間におけるシミュレーションの活用)
  - 候補用地関連事業者 (土地保有者等) の意向確認
  - 地元市町等の運航・輸出入拠点誘致意向 / 土地・周辺環境調査 等

### ②拠点整備に向けた計画の策定 (2026年度)

- ・ 計画策定
  - 具体的な整備・構築プロセス / 拠点の運用オペレーション / 整備スケジュール / 役割分担 等

### ③拠点の設計・整備 (2027年度～2028年度)

- 〔 設計、整備

<p>目標・目的</p>	<p>■県民が次世代エアモビリティを知る機会の創出、移動手段の一般化への機運醸成                  ■新たな制度・ルール策定等に向けた取組の推進、継続的な運航サービス環境の整備支援</p>
<p>実施項目 (主体※)</p>	<p>&lt;認知度向上&gt;                  ①各種イベント等を通じた理解促進 (県)                  ②運航サービスと連携した理解促進 (県)                  &lt;ステークホルダー連携&gt;                  ①国／企業・団体への提言 (県)                  ②国／関係自治体／地元関係者／企業・団体との連携 (県)</p> <p style="font-size: small;">※各フェーズ毎に行政・事業者が一体となって取り組むものであり、主体は現時点の想定</p>
<p>取組内容 (取組時期)</p>	<p>&lt;認知度向上&gt;                  ①各種イベント等を通じた理解促進 (2025年度～2027年度)                  [・専門メディアによる情報発信、シンポジウム・セミナー・ワークショップ・機体展示イベントの開催 等]                  ②運航サービスと連携した理解促進 (2028年度～)                  [・実機の試乗、フライトシミュレーターによる運航体験、見学ツアー]                  &lt;ステークホルダー連携&gt;                  ①国／企業・団体への提言 (2025年度～)                  [・屋上設置型の離着陸場の利用開始に向けた取組 (～2029年度)                  [・ドクターヘリとしての活用開始やその他自律飛行等における規制緩和等に向けた取組 (～2035年度)                  ②国／関係自治体／地元関係者／企業・団体との連携 (2025年度～)                  [・導入促進に向けた関係者とのネットワーク構築、連携強化                  [・航路や離着陸周辺関係者との調整 等</p>